

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- (1) 変化の激しい社会環境に柔軟に対応しつつ、多様性を尊重し、新しい価値を創造するのに必要な自主自律の態度と豊かな人間性を身に付けた創造性豊かな人材を育てる。
(2) 上記の目的達成のため以下の、目標を設定した。
・自ら問いをたて、課題を見つけ、様々な人と協働して解決を目指す人材を育てる。
・単位制高校として多様な科目選択を可能にし、主体的に工夫や改善をしながら知識や技能を修得しその過程で培われる見方・考え方を働かせて適切に対応できる力を育成する。
・自分の興味・関心を追究し、学校内外での様々な活動に積極的に参加し、目標を設定し、その達成のために学び続けるとともに、それを社会に役立てようとする姿勢を育てる。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会の人・もの・ことに関する総合的な学習を通して、自己のあり方生き方を考えながら、適切に論理的な課題の発見と解決ができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 社会的事象に関心を持つとともに、主体的に関わり解決を目指すことができる。具体的には、
①自らを取り巻く情報から、自分にとっての課題を切り取り、必要なものを収集・取捨選択し、課題の解決のための自分なりの目標を設定できる。
②収集した情報を的確に読み取り、課題を多角的に分析・考察しながら、設定した目標に向けてのプロセスを考えることができる。
③自分の考えを自分の言葉で明快に示すとともに他者の考えを傾聴し、着地点を模索できる。
(2) 多様な他者の存在を受容し、敬意と思いやりを持って共生をはかろうとする「豊かな人間性」を身に付けることができる。具体的には、
①繰り返しよく考え、自主的に行動し、目標の達成に向けて粘り強く取り組むことができる。
②ものごとを多角的・多面的に見て柔軟に考え、他者と協力することができる。
③規範意識や生命尊重の姿勢などを身に付け、道徳的かつ自律的に行動することができる。

総合的な探究の時間の学習評価

- (1) 課題の解決と自らの目的とする進路と結びつけて考え、進路実現に対する高い意識と主体的な行動力
(2) 課題を発見し、情報を集めて分析してものごとの本質を理解したり、課題の合理的な解決策を設定したりし、工夫しながら取り組む力
(3) 総合的・統合的な見方・考え方・教科横断的で多角的な視点やそれらの統合による既成の価値観にとらわれない、自由で独創的なものの見方や考え方
(4) 課題の解決にあたり、他者との協働により、目的達成をはかる実践力
(5) 地域や社会の一員としての自己を理解し、その発展や向上に自己の能力を生かして貢献しようとする姿勢

以上を成果物・討議や発表の様子・相互評価の内容などを通じて総合的に評価する。

生徒の実態

- (1) 外部からの指示待ちで行動することが多く、自分で状況を判断しながら行動することに関して控え目である。
(2) 他者への気遣いができる一方で、自分を出すことを抑え、生徒間で深い人間関係を構築することが得意とは言えない。
(3) 潜在的な力はあるが、間違いや失敗を恐れる傾向があり、その力を十分に発揮できない。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- (1) 個に応じた指導体制の充実
・職員全体での生徒サポート
・教科横断的な指導体制の構築
(2) 思考の深化を促すワークシートの工夫

目指す生徒の姿

- (1) 他者の役に立とうとし、そのために自ら考え、行動することができる生徒。
(2) 何を学ぶべきか判断し、知的好奇心を持って、主体的に学習することができる生徒。
(3) 豊かな人間性を持ち、円滑で創造的な人間関係を築くことができる生徒。

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

(1) 1年次 【探究課題(基礎編)】
書籍の講読や講義、演習などをとおして探究活動に必要なスキルの基礎を学ぶとともに、現代社会の諸相に関する個人や社会の課題を発見、考察することをとおして自己の在り方・生き方や社会のあり方を考える。

(2) 2年次 【探究課題(発展編)】
自分の関心のある分野やアプローチの仕方を具体的にするとともに、それに関連する課題を設定、考察し、自分なりの解決策とその過程を考えることをとおして自己の在り方、生き方や社会の在り方についての考えを広げる。

(3) 3年次 【探究課題(完成編)】
大学での学びや将来就きたい職業など自分の進路と関係する課題を設定、考察することをとおして、自己の在り方、生き方や社会の在り方についての考えを深めるとともに進路実現への意識を高める。

【3年間を通して育成を目指す具体的な資質・能力】

- ①様々なトピックの認識による課題発見(設定)スキル(知識及び技能)
②資料収集、論点の読み取り、分析理解、自己の意見の作成のスキル(思考力・判断力・表現力)
③まとめの共有による傾聴、伝達のスキル(学びに向かう力、人間性等)
④協働、発表による思考の深化や表現のスキル(表現・学びに向かう力・人間性等)

(4) 現代社会の諸相に関する課題として、SDGsの17項目を参考とする。その際、グローバルな視点をローカルな課題へ落とし込めるようにする。

学習活動、指導方法等

【学習活動】

- (1) 様々な分野の書籍等を読み、理解して、自己の在り方、生き方や社会の在り方を考える。その際、書籍や教材の論理展開を踏まえて論点に関する多様な情報を収集し、論点をもとに、問題点を整理、分析する。(個人活動)
①1年次ではある程度共通した教材を使い、分析に基づいて自己の意見を持つことを通して進路選択につながる課題を発見することを目指す。同時に探究のスキルを身につける。
②2年次では共通する課題意識を持つ者で班を編成し、より多面的な情報と知見の収集から、問題の解決策とそのプロセスを考えられるようになることを目指す。
③3年次では自己の進路決定と絡めて個人的な探究活動を行ない、進路実現に繋げる。
(2) 学習したもののまとめや発表による知見の共有と総合化、深化(集団活動)
①課題設定、情報収集・分析・まとめ、発表のサイクルを、各年次とも複数回繰り返す。

- ②各自が書いたものを班、クラス、年次で発表する機会を設け、相互評価する。
③個人発表の他、班での発表の機会も作る。
④ポスター発表やワールドカフェ等による表現活動及び相互評価などの方法を工夫する。

(3) 校外人材の活用による啓発活動

- ①大学模擬授業、職業人講話などで各分野において活躍している方々の知見を得る。
②小論文講演会やICT講演会などによる情報収集、分析、表現スキルの講習を行う。
③遠隔地の講師にも対応できるようICT活用によるオンラインでの実施を工夫する。

【指導方法等】

- (1) 教材の準備 最初は探究推進活動部・各教科・年次が提供し、幅広い視点を育めるよう教科横断的な観点に立った指導を行う。
(2) スキルの向上 反復による各種スキルの向上を図る。また、体験的活動や大学や研究所、企業あるいは自治体等と連携することにより、より高い効果の実現を図る。
(3) 道徳的要素 探究的活動を通して自己の在り方、生き方を考えるとともに、社会を構成する公民としての資質向上も図れるようにする。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

【担当校務分掌】 探究活動推進部 1 年間指導計画にもとづき・進行を把握する。 2 新学習指導要領を踏まえ、内容や評価等の改善を行う。

【校内研修】 探究活動勉強会 探究活動の具体的な指導法について研修を行い、ファシリテーターとしての職員の資質向上を図る。

【地域との連携】

- 1 筑波大学・茨城大学・県立医療大学等の大学、JICA 筑波や産総研などの民間機関、市役所・税務署・選挙管理委員会などの行政機関並びに保護者や卒業生との連携強化を図る。
2 体験活動の受け入れ先を開拓する。
3 外部招聘講師による出前授業およびワークショップを行う。講師・聴衆・アドバイザーとして、保護者や同窓生の協力を募る。